

# 本学における診断学実習の現状と問題点

庄 司 進 一  
信州大学医学部第3内科学教室

## The Present State and Problems of Diagnostic Training in Shinshu University School of Medicine

Shin'ichi SHOJI

Department of Medicine, Shinshu University School of Medicine

信州大学医学部の内科診断学実習は、専門過程の2年の2学期から3学期にかけて、11月から2月初め、7回で計21時間行われている。4つの内科学教室が担当して、多くは7~10人ぐらいのグループに分かれて実習を行っている。最初の4回は同じ教室で、残りの3回

は他の3つの内科学教室で実習を1回ずつ行っている。4分の1の学生を対象にこの実習に関するアンケート調査を無記名で第7回目の実習出席者に実習終了後に行った。第7回目の実習の出席率は、86%であった。結果を表1にまとめた。

表1 アンケート結果

回収率 86%	いいえ 79%
内科診断学実習にどの位出席しましたか?	眼底鏡を使い眼底検査ができますか?
7回全部 71%	はい 17%
6回 29%	いいえ 83%
5回以下 0%	血圧計を使い血圧が測定できますか?
診療における診断の意義が分かりましたか?	はい 88%
はい 88%	いいえ 12%
いいえ 12%	肺の聴診ができおもな異常が分かりますか?
診断における問診の意義が分かりましたか?	はい 4%
はい 71%	いいえ 96%
いいえ 29%	心臓の聴診ができおもな異常が分かりますか?
診断における診察の意義が分かりましたか?	はい 8%
はい 88%	いいえ 92%
いいえ 12%	腹部の診察ができおもな異常が分かりますか?
診断における検査の意義が分かりましたか?	はい 8%
はい 67%	いいえ 92%
いいえ 33%	神経所見がとれおもな異常が分かりますか?
問診の仕方が分かりましたか?	はい 29%
はい 37%	いいえ 71%
いいえ 63%	内分泌疾患の診察ができおもな異常が分かりますか?
問診する上の注意点が分かりましたか?	はい 33%
はい 20%	いいえ 67%
いいえ 80%	4月からの臨床実習で患者の診断にある程度の自信がありますか?
診察の仕方が分かりましたか?	はい 8%
はい 33%	いいえ 92%
いいえ 67%	
診察する上の注意点が分かりましたか?	
はい 21%	

これから分かることは学生の61% (0.86×0.71)は7回の実習に皆勤していることになるので、実習の出席率はそれほど低いとは言えず学生がこの実習の重要性を認識しているといえよう。しかし実習の効果を学生は診療における診断の意義、診断における問診・診察・検査の意義を理解するには役立ったが、問診・診察の仕方や注意点の習得には役立たなかったと考え、血圧は測定できて、眼底は診られない、肺・心臓・腹部・神経・内分泌などの診断ははじめ全体としてもある程度の自信は持てず、新学期からの実習を迎えるという状態であると判断しているようである。

自由に書いてもらった学生の意見・感想の中で最も多かったのは、時間数の不足であり、その他専門2年の試験前で時期がなんとかならないかななどの意見があ

った。

内科診断学実習を担当している教官のアンケートでも全員が問題ありと考え、問題としては時間数の不足、他科の教官の参加などの意見があった。

内科診断学実習担当の教官間で話し合いを始めており、この中で改良できるものは改良しマニュアルの作製をしていこうとのコンセンサスができて作業を始めている。問題は内科だけでは解決できない実習の時間数や時期や、他の科の教官を含んだ診断学実習の必要性に関する討論・検討をどのようにするかということだと思う。臨床の最初のステップを確実に教育することの重要性に関しては疑問のないところと思うが、本学の現状と問題点を呈示し将来への討論の必要性を強調したい。

(1. 5. 1 受稿)